

岩手発展 科学が開く

平館小児童、未来を議論

出前授業

八幡平

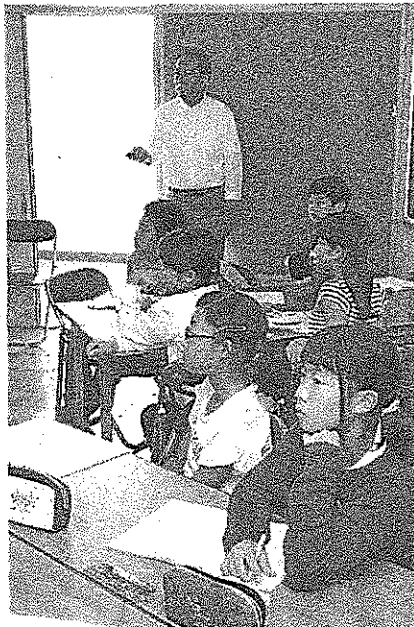
盛岡広域振興局は25日、



八幡平市平館の平館小(高橋浩幸校長、児童111人)の5年生21人向けに国際リニアコライダー(ILC)の出前授業を開いた。児童は物質元となる素粒子やILCの装置などについて関心を高めた。

岩手大理工学部の成田晋也教授(48)が講師となり、素粒子発見の歴史やILCの仕組みなどを説明。児童は「ILCができたら岩手はどう変わるか」についてグループごとに話し合い、

成田晋也教授(奥)の授業を受け、ILCの仕組みなどについて学ぶ平館小の5年生



「交流ができて世界の平和につながる」「岩手の文化を伝える機会になる」など未来について考えた。

成田教授は「ILCは岩手の良きや未来を切り開く可能性を秘めている。皆さんが主役になってほしい」

と期待を込めた。

斎藤航河君は「ILCができて岩手が世界から注目されればうれしい」と将来を思い描き、遠藤さくらさんは「授業を受けて今までより身近に感じる事ができました」と実感を込めた。